団体会合

第26回
全国自転車問題自治体連絡協議会総会レポート

去る5月11日、全国自転車問題自治体連絡協議会の第26回総会並びに自転車問題解決促進大会が横浜市において開催され、翌日には同市内にて施設見学会が実施された。総会ではすべての議案が全会一致で承認、採択された。
ここでは、促進大会における登壇者のスピーチを中心に、その模様を要約抜粋し、誌上再現にてお届けする。

会長挨拶

推進法のもと、自転車活用を総合的かつ計画的に進めたい

全国自転車問題自治体連絡協議会
会長　石川雅己氏（千代田区長）

近年、自転車に関する問題は、単に放置自転車等が社会に悪影響を及ぼすという側面だけではなく、自転車を有効に活用することで社会の問題を解決していこう、という方向に転換しつつあります。昨年12月には、自転車活用推進議員連盟の皆様方のご努力により、自転車活用推進法が全会一致で可決されました。自転車活用推進本部が設置され、具体的に自転車活用推進計画を策定することとなっています。この計画の策定にあたりましては、国民に最も身近な市区町村の意向を十分に汲み上げていただきたいと願っております。また、私たち市区町村におきましても、国や都道府県と足並みを揃えて、自転車の活用を総合的かつ計画的に推進していきたいと思っております。

さて、私は今後の自転車政策は「かきくけこ」に集約されると思っております。自転車の利活用を推進していくためのキーワード、それが「かきくけこ」です。まず、「か」は「環境」或いは「観光」です。言うまでもなく自転車は環境にやさしい乗り物であり、観光地巡りにも適した乗り物です。「き」は「共同利用」です。現代社会においては、様々な分野で「所有」から「共同利用」へと転換しつつあります。自転車も今後は所有だけでなく、シェアサイクルという方向に進んでいくものと予想しております。「く」は「クリーン」です。自転車は排出ガスを出さないだけでなく、放置自転車をなくすことにより、まちは非常にクリーンな景観になります。そして「け」は「健康維持・増進」です。最後に、「こ」は「コミュニティ」或いは「コミュニケーション」です。自転車を利用している方どうしのコミュニケーションが行われている様子をしばしば目にしますし、これからは、この自転車が、日本を訪れる外国の方々との国際交流のツールにもなると思っています。

なお、その一方で、身近な交通手段であるがゆえに、自転車のルールやマナーを守らずに利用する人が後を絶ちません。放置自転車の問題もまさにそのひとつです。加えて、自転車が安心して走行できる環境の整備についても、必ずしも十分に進んでいるとはいえません。自転車の利用者が増えれば増えるほど、こうした課題がそれぞれの自治体に大きく押し寄せることも考えられます。国や都道府県におきましては、市区町村が行う走行環境の整備に対しこれまでもご支援をいただいていますが、今後も一層強力なご支援を賜りますよう、お願い申し上げます。

DATA　日時：平成29年5月11日
会場：ロイヤルホールヨコハマ（横浜市中区）

来賓挨拶

省庁の壁を越えた自転車活用推進本部の設置を受け我々も責任を持って取り組む

自転車活用推進議員連盟 幹事長
衆議院議員
河村建夫氏

自転車の問題に対してどう対応していくべきか、ということで議連を作り、研究を始めました。自転車道の整備等々に関する法律は昭和45年の自転車道路整備法がありましたが、これだけでは足りない。国がちゃんとこの問題に責任を持ち、それに合わせて地方自治体も責任を持つということが必要だということで、今般、自転車活用推進法の成立に至りました。

この自転車活用推進法に基き、国土交通大臣を中心にした自転車活用推進本部が設置されました。役所の壁を越え、関係大臣だけでも総務相、文部科学相、厚生労働相、経済産業相、環境相、内閣官房長官、国家公安委員長が名を並べておられます。我々も責任を持って対応し、取り組んでまいります。

自転車活用推進法の成立を機に自転車事故防止の環境づくりを進めたい

自転車活用推進議員連盟 幹事
衆議院議員
佐藤英道氏

自転車活用推進法に基いて具体的な前進ができるよう、しっかり推進役を担っていかなければならないと感じています。特に事故防止のための環境整備を進めるべきだと思っています。車道走行が原則の自転車にとって、安全に走れる空間をどう確保するか。この課題への取り組みが重要です。交通事故全体の件数は2015年までの10年間で4割も減少している一方で、歩行者が巻き込まれる自転車事故件数は横ばいとのことです。自転車先進国の欧米諸国に比べ、日本では自転車乗用中に亡くなる人の割合が高いという指摘もあります。

ぜひこの自転車活用推進法の成立を契機に、自転車事故防止の環境づくりを目指すべきと思っています。

意見発表・講演会

❶意見発表は開催市である横浜市の取り組みについて、横浜市 道路局 総務部 交通安全・自転車政策課長　中山 昭氏により説明が行われた。講演会では❷有限会社クリオシティ 代表取締役 柳川健一氏による「How to メッセンジャー」と題した、自転車を用いた配達事業についての講演、❸日本コンピュータ・ダイナミクス株式会社の中根純一氏(右)、古高誠司氏からは「NCDのパーキングシステム事業について」として、同社の事業紹介が行われた。

施設見学会

総会翌日は横浜市内の施設見学会。❶山下公園のポートでは「横浜コミュニティサイクル baybike」の見学及び試乗。❷同時に自転車タクシー「シクロポリタン」に試乗体験も。❸❹みなとみらい駅そばの自転車駐車場を見学。自転車置き場にはスライド式ラックが採用されている。